

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 北海道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	江差町立水堀小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	6	10
児童数	8	9	5	10	11	10	1	54	

研究の概要

1. 研究主題

子ども一人一人に確かな学力を身につけさせる指導法の工夫  
～個に応じた指導の充実を目指して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

個に応じた学習指導のための指導方法・体制の工夫改善

1～6学年・算数科

児童の実態調査から学校全体として落ち込んでいる領域の学力を向上させるため  
発展的・補足的な学習の個に応じた指導のための教材開発

3～6学年・算数科・国語科

児童の理解や習熟状況に差が出やすい教科であるため

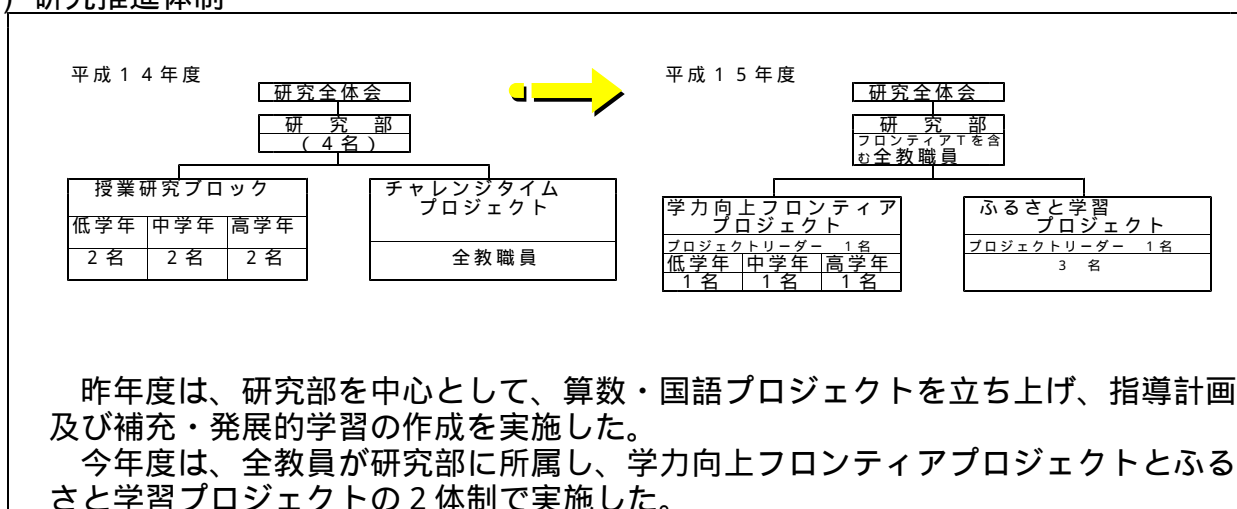
(2) 年次計画

平成14年度	<p>テーマ 算数科「数と計算」領域における個別指導の工夫 研究の見通し(仮説) 学習の基礎・基本を明確にし、系統的・発展的な指導や個に応じたきめ細かな指導を工夫することによって、子ども一人一人に確かな学力を身に付けさせることができる。 研究の内容・方法 ・児童の実態把握(標準学力検査の実施とデータ把握、個人学習情報カードの作成と活用) ・学習プログラムの検討及び作成(「数と計算」領域における学習単元の基礎・基本の明確化、小単元の基礎・基本を生かした指導計画の作成) ・個に応じた指導の工夫(コース別学習の設定、「数と計算」領域における小単元の授業研究、チャレンジタイムの実施)</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 算数科における個の学習状況にあわせた指導体制及び評価の工夫改善 &lt;研究領域を広げ、個別指導の内容を明確にするため変更&gt; 研究の見通し 算数科「量と測定」「数量関係」領域における個別の学力状況にあわせた指導方法や指導体制を工夫することで、きめ細かな指導を進めることができる。 &lt;前年度の研究仮説をより具体化するために変更&gt; 研究の内容・方法 ・仮説検証授業の実施(学習過程のなかにTT指導を活用した2つの学習コースを設定) ・個別の学力調査を生かした評価の工夫(評価規準の作成及び学習情報記録カードの作成・活用) ・補充・発展的な学習指導の充実(チャレンジタイムの指導体制の改善) ・学習の自立を目指した学習の仕方の検討(算数科における学習の仕方の検討) &lt;より具体的な研究内容・方法にするために変更&gt;</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 個の学力に応じた指導方法・体制及び評価の工夫改善 研究の見通し 2年間の研究の成果（学習意欲の向上・基礎基本の定着）をより確実なものとするために算数科の指導を継続して行うとともに、国語科でのコース別学習を模索する。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説検証授業の実施（算数科・国語科でのTT指導を活用した2つの学習コースを設定）</li> <li>・個別の学力調査を生かした評価の工夫（評価規準の作成及び学習情報記録カードの作成・活用）</li> <li>・補充・発展的な学習指導の充実（チャレンジタイムのワークの補充）</li> <li>・学習の自立を目指した学習の仕方の定着</li> </ul>
--------	---

### (3) 研究推進体制



#### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

##### 1. 研究の成果

コース別学習による学習の仕方が定着してきたことにより、理解の状況や程度によって問題を選択し理解を深めることができるようになった。  
チャレンジタイムを工夫改善したことにより、個別に学習課題を選択し取り組めることで学習意欲が高められた。  
TT指導を導入したことで、きめ細かな個に応じた指導ができるようになった。

##### 2. 今後の課題

算数科における学力については、コース別学習やTT指導、チャレンジタイムの実施、朝の学習や家庭学習指導との連携等から、個の学力の向上が見えはじめてきていることから、更に継続して研究を行う。  
また、国語科におけるコース別学習の方法についても検討し実践する。

#### 学力等把握のための学校としての取組

標準学力検査の実施  
児童の算数科における学力の実態を把握し過去の学力との比較検討をする。  
平成16年3月実施

児童の学習に関するアンケートの実施  
指導体制や指導方法の工夫改善について、児童の意欲・関心・態度等を把握する。  
平成15年12月実施

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究実践発表会の開催

時期～平成16年11月19日 場所～自校 対象～管内各学校・フロンティア

校及び保護者 会の目的～学力向上の研究成果について発表

研究成果普及のためのHP作成

研究成果リーフレット作成 平成16年3月

フロンティアティーチャー研修会への参加

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T.Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科）  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無